



photo by haruka923

ひとつ屋根の下で

嗜好調査を実施しました

自分メシ

年報ダイジェスト

数字で振り返る友和病院

作業療法だより

相談支援事業所エスペランサ

理事長、かく語りき

デイケア叶えです！

診療時間等ご案内



HP



Instagram

「ひとつ屋根の下で」



夏休みになりました。

子どものいるご家庭は、どこも、てんやわんやの毎日かと思います。子育てにおいては、特に子どもがまだ幼く、その渦中にある時には、「こんなに大変なことは、他にない……!」と、気分的に追い詰められることも多いでしょうが、過ぎてしまえば、それが「ゴールデンタイム」であったことに気づかされます。長い夏休み、若い親御さんには頑張っていただきたいと思います。

ところで、私は、今年の四月、当院に赴任しました。前の職場は心のゆきづまり状態にある子どもの「治療施設」であり、三十年あまり、「子どもの精神科医」として彼らと向き合ってきました。人生の終盤を迎えられた方々に向き合う今とは、随分趣の異なる日常でした。

それでも、ここで四か月働き、両者に通底することにも気づかされました。前の職場でも、「治療」ということに対して、外からは「カウンセリング」や「薬」といった専門家の提供する「専門的な行為」への期待がありました。そうしたものの大切さは認めつつも、常に心掛けていたのは、子どもたちの育て直し（治療）の場を、安全で安心感のある、心地良い環境にすることでした。あれこれ策を弄さなくても、草木の成長がそうであるように、適切な環境が与えられると、彼らは自然と育って（治って）いきました。大人の臨床にも同じ側面があると思います。

では、そうした環境を整えていくには、どうしたら良いのでしょうか？職員について言えば、お互いがきちんと挨拶をする、話し合う、笑顔を忘れないようにすることを心掛けていました。そして、相手の吐き出す「心の澱^{おと}」を受け止める余裕を持てるように、常に私生活を整えることを意識し、皆で共有していました。

さらに月二回、始業前に施設の傍の生垣や道路の「ボランティア清掃」をしていました。業務命令ではありませんでしたが、六〇七割の職員が常に参加していました。一緒にゴミを拾い、草取りをすることで、わが家と同じように、職場を「大切にする気持ち」や「愛する気持ち」が醸成されたように思います。そうした職員の姿を見て、子どもたちも自らが大切にされることを想像したでしょうし、居場所や生活の場としての「施設」を大切にすることへの気づきがあったのではないかと思います。

大人であれ子どもであれ、病院や施設は、患者さん（子ども）と職員が、あるいは患者さん同士（子ども同士）が、さらには職員同士が、関わり合い、支え合いながら、治療という協働作業をしていく場所です。ひとつ屋根の下で、皆が心を合わせて日々の生活行為をすることに、あらためて意識的でありたいと思っています。

新米の老兵ドクターですが、よろしくお願ひします。

（医師 西田 篤）

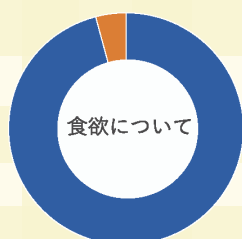


毎朝、二階病棟での体操の時間に参加するのが日課となった。

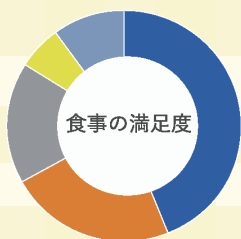
嗜好調査を実施しました

友和病院では、嗜好調査を年に1回実施しています。これにより食事に対する喫食状況を把握し、より良い食事の提供を目指しています。今号では5月に2階病棟で実施した調査の結果を報告いたします。

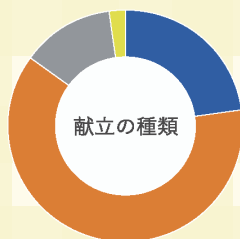
2025年度嗜好調査 回答者：2階病棟 56名中 49名



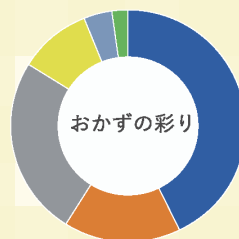
■ ある 96%
■ ない 4%



■ 満足 44%
■ やや満足 23%
■ 普通 17%
■ 少し不満 6%
■ 不満 10%



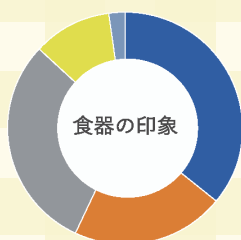
■ 多い 23%
■ 普通 62%
■ 少ない 13%
■ その他(良い) 2%



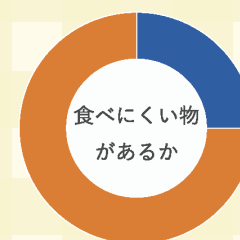
■ 満足 44%
■ やや満足 23%
■ 普通 17%
■ 少し不満 6%
■ 不満 10%
■ 考えたことがない 2%



人気メニューは今回もカレーと麺類でした！

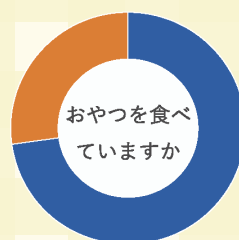


■ 満足 36%
■ やや満足 21%
■ 普通 30%
■ 少し不満 11%
■ 不満 2%



■ ある 25%
■ ない 75%

歯に挟まるもの、固い物が食べにくい！



■ はい 73%
■ いいえ 27%

お饅頭、かつぱえびせん、かりんとうやチョコレートが人気でした。

管理栄養士より

調査にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。栄養給食科では、嗜好調査だけでなく、毎日の昼食時のラウンドや意見箱を通して、患者さまからのご意見・ご要望を集め、委託会社と共有しながら献立に反映しています。これからも、安全でおいしく、楽しみにしていただける食事の提供に努めてまいります。

たいがい時も、自分に栄養 自分メン ステップ4

いただきます



「簡単★豚キムチ」

《材料》1人分

- ・豚肉細切れ 100g
- ・キムチ 100g
- ・カット野菜 1袋
- ・ごま油 大さじ1

カット野菜は色々な野菜が入っていて使い残しもなく便利です♪

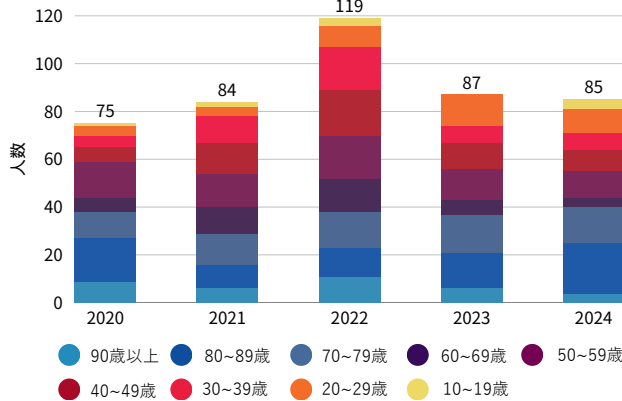


《作り方》

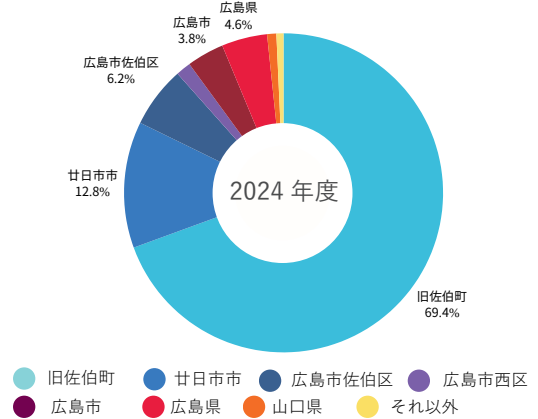
- ①フライパンにごま油をひき、豚肉の色が変わるまで炒めます。
- ②①にカット野菜とキムチを入れて炒めて、完成！

キムチを使うことで味付けの手間が減り、包丁いらずで、かんたんに作ることができます。この1皿でたんぱく質とたくさんの野菜を摂ることができ、さらに発酵キムチを使うと腸内の環境を改善してくれるなどの効果もあります。最近のスーパーでは様々な種類のキムチが売られているので、自分に合ったものを見つけてみてください。アレンジの際には追加でニラを加えると栄養の吸収がよくなり、疲労回復効果も期待できます！

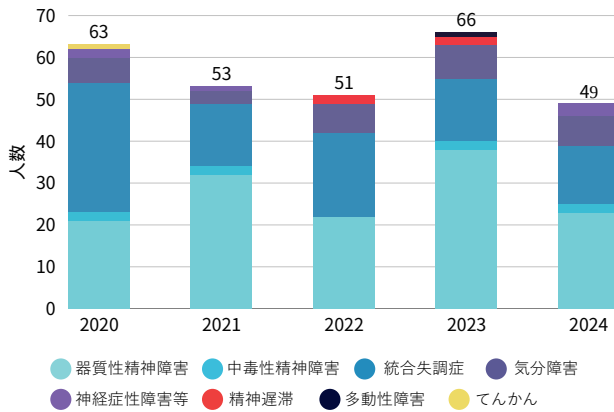
初診時年齢別外来患者数



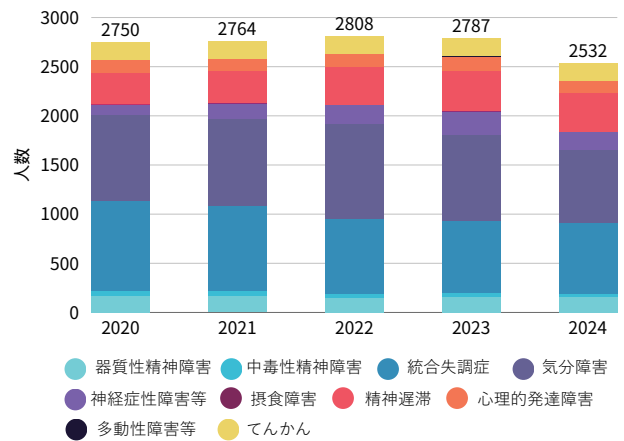
居住地別外来患者割合（精神科）



入院時主病名別患者数



精神科病名別外来患者数



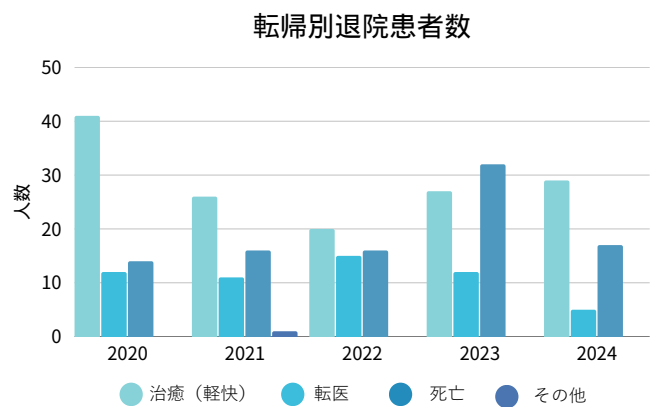
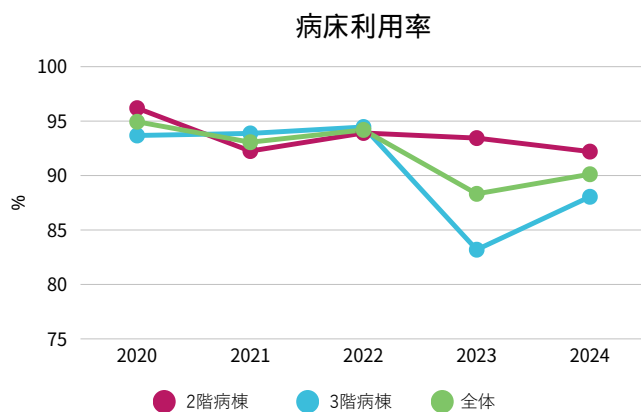
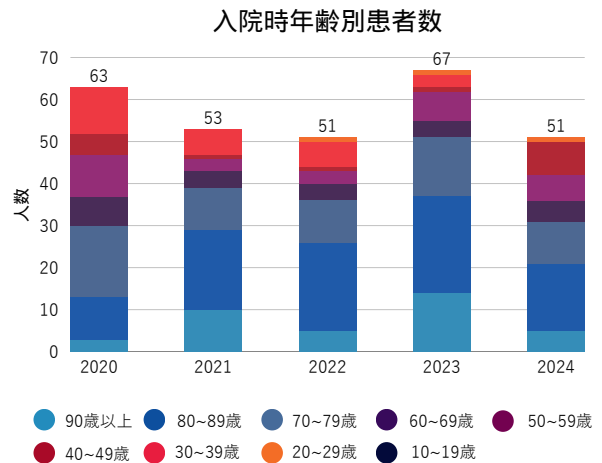
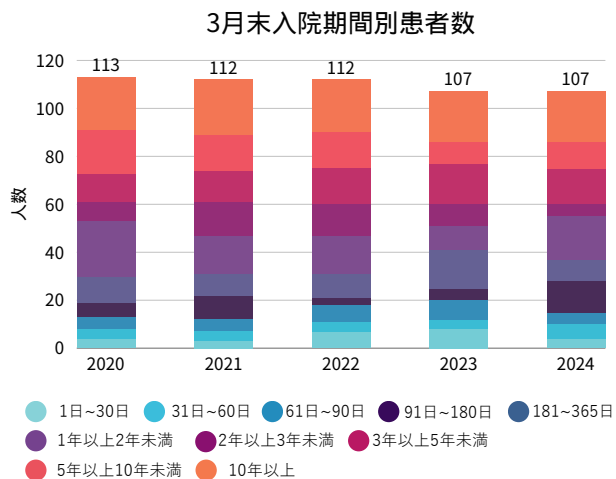
外来・入院動向と病棟利用の概況

当院の外来は、主軸を串戸心療クリニックにしている為、受診される方は多くはありませんが、旧佐伯町や廿日市市内、広島市佐伯区から通われる方が多く、地域に根ざした精神科医療を担っていることがわかります。初診の方では70歳代がやや多く、また、幅広い年代に対応しており、最近では20代の方の受診がやや増加傾向にあります。主病名別では、統合失調症が微減し、精神遅滞や不安・ストレスによる症状の相談が増えてきています。

入院される方では、統合失調症の割合が大幅に減る一方で、認知症の方が増えていきます。また、気分の落ち込みなどで入院する方も少し増えていきます。入院時の年齢では80代以上の高齢入院が顕著に増えており、40～50代の中年層も増えていることから、慢性期にわたる療養支援の重要性が示唆されています。

病床利用率は2020年の95%から90%に大幅に低下しました。2階の若年・中年層中心の療養病棟は引き続き92～95%の高い利用率が続いていますが、3階の認知症療養病棟ではターミナル期の増加により入院期間が短くなる傾向があり、空きベッドの調整が難しくなっています。今後は、病棟の役割や医療提供体制のあり方を見直し、質の高い医療と地域ニーズの両立を目指す必要があります。

当院は、統合失調症や認知症を中心とした慢性期・療養期の精神科医療を担う医療機関として、地域と共に患者さんの長期的な暮らしを支えることを使命としています。高齢化が進む中、ターミナル期を含む認知症ケアの重要性が増す一方で、若年・中年層への継続的支援も求められています。今後は①病棟機能の見直しと柔軟な運営、②終末期を含めた療養の質向上、③地域との連携による退院後の暮らしの支援を柱に、患者さんの「暮らしの場」となる医療を目指します。



友和病院 作業療法だより⑥





利用者さんの視点で、困りごとに寄り添う

相談支援事業所 エスペランサ

『相談支援事業所エスペランサ』（以下エスペランサ）は、平成二十五年に広島県の指定を受けグループホーム内に事務所を構える形で相談支援事業を開始しました。当初は、佐伯地域に居住される方を中心に相談業務を行っていましたが、最近では廿日市地域、大野地域からの依頼も増え、現在では担当件数の半数以上を占めるようになりました。

エスペランサの相談業務の話をする前に、まず相談支援の役割や種類について簡単に触れておきます。

相談支援（事業所）は、障がい者やそのご家族等に対し、在宅サービス等の利用援助、社会資源の活用や社会生活を高めるための支援、必要な情報提供等を総合的に行うことで、地域生活をより細やかに支援し、自立と社会参加の促進を図ることを目的としています。相談支援事業所で行う相談の種別は大きく分けて以下の三つです。（※障害児相談支援は除く）

・基本相談支援

障がい者やそのご家族等からの相談に応じて、必要な情報の提供・助言を行います。『基本相談支援』は、相談支援のベースであり、後述する『地域相談支援』や『計画相談支援』への入り口となります。

・地域相談支援

地域相談支援は、『地域移行相談支援』と『地域定着相談支援』があり、『地域移行相談支援』は、

施設や病院等に入院している方が、地域生活に移行できるように住居を確保するなど、必要な支援や相談を行います。『地域定着相談支援』は、既に地域生活を送る方に対して、再び入院や施設に入所せずに地域で暮らし続けるための支援を行います。

・計画相談支援

『計画相談支援』は、障害福祉サービスを利用するための支援で、サービス利用の際に必要なサービス等利用計画（案）を作成するための『サービス利用支援』とすでにサービス利用されている方に対して、一定期間ごとにモニタリングを行い、サービス利用の見直しや更新に関する調整を行う『継続サービス利用支援』があります。

実際のエスペランサの業務は『計画相談支援』が大半で、利用者さんやそのご家族、行政、支援機関などから依頼を受け利用計画の作成に着手します。その際に、利用者さんと面談を進めていくわけですが、そのサービス利用の相談を深掘りしていくと、そこには「経済的な困窮」や「健康問題」、「社会的な孤立」など様々な課題や地域生活の不安が隠れていることがほとんどです。それらの課題を解決するためには障害福祉サービス利用だけでは困難なことも多く、そのため必要な関係機関等と課題を共有し、解決のための協力体制を構築、様々な社会資源等の活用も視野に入れることが必要です。そこには地域で暮らす生活者である利用者さんの困りごとに寄り添う姿勢が必要で、利用計画

の中に利用者さんの視点が入っていることが最も重要と考えています。今回は、相談支援や『相談支援事業所エスペランサ』の概要を中心に伝えました。また機会があればもう少し踏み込んで地域生活をされる利用者さんがどのように福祉サービス等を活用されているのか実例を交えながらお伝えできたらと考えています。

（精神保健福祉士 金子智範）

相談支援事業所 エスペランサ

サービス内容 障害福祉サービスの利用支援、障害福祉に関する相談 等

所在地 広島県廿日市市峠字下ヶ原 500 番地
(グループホームエスペランサ内)

電話番号 0829-74-1106

受付時間 月曜日～金曜日 (8:30～17:30)

休業日 土・日・祝／年末年始

サービス対応地区 廿日市市内 (主に佐伯・吉和地域)

※廿日市市外の方は応相談

費用 利用料は無料です。サービス利用に係る計画作成については公費負担となるため利用者様の負担はありません。



「フルボーン病院のクラーク先生」

▶ デイビッド・H・クラーク



前回はクラーク先生が提唱された精神科病院運営の五原則を紹介し、次回は「治療共同体」について述べるとお約束したのだが、新しく入手したクラーク先生の著書に、フルボーン病院での先生の実践がより具体的に述べられているので、概要を紹介することで換えようと思う。

クラーク先生とフルボーン病院との出会い

その著作とは『21世紀の精神医療への挑戦』（原題：The Story of a Mental Hospital Fulborn 1858-1983）である。本書は、ケンブリッジ州立フルボーン病院に着任されたクラーク先生の実践を書き記した自伝的な本である。フルボーン病院は、貧困な精神病患者を収容する病院（癲狂院^{てんきやういん} Asylum）として一八五八年に創立された。当時としてはピネルやコノリーの道徳療法の流れに沿った、鎖による拘束のない先進的な病院であったが、百年の年月はフルボーンを陰鬱で沈滞した収容施設に変えており、八五〇人の入院患者の多くは無為に過ごしていた。クラーク先生は一九五三年に三十二歳でこの病院の院長に就任された。奇しくもそれは、私が友和病院の院長になったのと同じ歳であった。

クラーク先生は、ケンブリッジ大学で医学を学び、卒業後三年間軍医として第二次世界大戦に従軍し、戦後、精神科医としての訓練を受けたのち、フルボーン病院の院長の公募に応じた。その時は、臨床精神医学の知識はあったものの、病院を管理運営した経験はなく、州立精神病院に勤務した経験さえなかった。当時の国民保健サービス（NHS）は癲狂院の改革を目指しており、新しいアイデアの探求や改善を支援していた。先生は「フルボーンでぜひ実践したい計画と信念」を持って病院に乗り込む。それは「全病院の開放化」で、治療共同体の運営、社会生活支援の仕組みの構築など、革新的な改革を次々と成し遂げた。クラーク先生はフルボーン病院での三十年間の実践を「社会療法の発展過程」と位置づけて、①オープンドア運動の時期、②治療共同体実践の時期、③地域ケアサービスの展開の時期に分けている。

開放化への第一歩 「全員に仕事を！」

第一の「オープンドア運動の時期」は一九五〇年代で、クラーク先生の着任後、猛烈な勢いで開放化が進められ、院長就任から約四年で全ての病棟が

開放化された。癲狂院時代のフルボーン病院は「人間を駄目にするほど保護的」だったのが今や、その能力に応じて、何らかの役割を担う事が求められた。その活動は、部屋の掃除、食卓の配膳、グラウンドの草抜きなどから、病院の宮繕技師の助手として、院内のあらゆる部分の修理や改修に従事する者もいた。多くの病棟で仕事に取り入れられるに従い患者の病院内で移動が増え、その都度病棟の鍵を開閉することの不合理さが問題になった。職員間で議論が行われ、その結果、鍵を掛けない「開放化」が行われた。多くの病棟で開放化は進み、患者と職員双方に安らぎと活動性をもたらした。

全開放の達成と病棟再編

最後に残った「男子第五病棟」は、「重症」で「難治性」の患者を集めた病棟で、過去に暴力的だった患者や殺人事件を引き起こした患者もいて、一部の職員やクラーク先生自身も、何かまずいことが起きるのではないかという不安があったようだ。職員間で色々な意見が飛び交う中で、最後は、「全ての責めは私自身が負う」とクラーク先生が言われたことで、鍵を開けることが決まった。「一九五七年二月、最後の男子病棟は恐る恐る開放された。（中略）しかし何も起こらず、二ヶ月が経ち職員たちは以前よりも快適さを感じはじめ、この新しい計画に自信を持つようになった。このドアは二度と施錠されなかった。」

フルボーンでは開設以来、男子と女子の病棟が厳然と分けられていただけでなく、看護者も男子病棟は男子のみ、女子病棟は女子のみが働いており、両方に自由に入れたのは牧師と病院長のみであったという。クラーク先生は病棟を再編し、デイルームと食堂を男女共用にした。患者同志の交流が生まれ、男女の看護者が一緒に働くようになった。また、新しい治療ユニットの設計に際してクラーク先生は、「リゾートホテルのようにすべきだ」と主張された。

振り返ると、私たちが友和病院を始める時の最大のテーマは「開放的な病院」であったし、全面改築の時のコンセプトは「リゾートホテル」だった。この驚くほどの相似は、三十二歳という年齢とともに、何か運命的なものを感ずるのである。

（医師 末田格）



廿日市エリアより



ーから耕すのは
かなり大変でした！

えっさ ぼいさ



干し芋、さつまいもチップス、スイートポテト..
(どう食べるか思案中)



小さな畑ですが叶えの大きな一歩です

精神科デイケア

かな
叶えです！



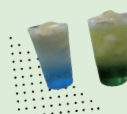
今年春から叶えでは近隣の畑をお借りし、農作業を始めました。今までプランターで夏野菜や季節の花を色々と育ててきましたが、畑仕事は初の試みです。

畑の名前を募集したところ「かなえファーム」に決まり、看板も作成しました。今年は初めてということで比較的育てやすいさつまいもを植えましたが、今のところ順調に大きくなり、愛着も湧いています。

暑い中の草拔きは思った以上に大変ですが、利用者さんも熱心に取り組まれています。無事さつまいもが収穫できたらどんな風に調理して食べようかとワクワクしながら秋を待ちたいと思います（その前に厳しい夏を乗り切らないといけません！！）。



高さが変えられるんです



「レトロ喫茶かなえ」
クリームソーダ好評でした。

お花見、カルビー工場見学、手作りスイーツ、木工（テレビ台やダーツスタンドをDIY！）など、充実した日々でした！



恒例のお花見も。

診察時間等ご案内

《旧佐伯町エリア》 ☎ 738-0202 広島県廿日市市峠字下ヶ原 500

- ・友和病院 ☎ 0829-74-0688
8:30~17:30（日祝休業）



		予約優先制						
		午前の部 9:00-12:00			午後の部 14:00-16:00			
		月	火	水	木	金	土	日
精神科・心療内科	午前	末田	名越・西田	清水	末田・西田	名越	予約	—
	午後	予約	名越・西田	予約	予約	予約	予約	—
内科	午前	高内	—	—	—	—	—	—
	午後	—	—	—	—	—	—	—
歯科	午前	—	堀	—	堀	—	—	—
	午後	—	—	—	—	—	—	—

- ・訪問看護ステーション「ゆうわ」 ☎ 0829-40-0822
8:30~17:30（日祝休業）

- ・共同生活援助事業所エスプランサ ☎ 0829-74-1106
・短期入所事業所エスプランサ
・相談支援事業所エスプランサ
8:30~17:30（日祝休業）

《廿日市エリア》 ☎ 738 - 0033 広島県廿日市市串戸4丁目 2-16



- ・串戸心療クリニック ☎ 0829-30-6014
受付：8:45~17:30

- ・デイケア叶え ☎ 0829-30-1900
9:30~15:30（木日祝休業）

- ・訪問看護ステーション和み ☎ 0829-30-8915
8:30~17:30（日祝休業）

完全予約制 受付は診察時間終了30分前まで								
祝祭日休診（日曜日が祝祭日の場合は診療、翌月曜日を休診とする）								
		月	火	水	木	金	土	日
心療内科 ・精神科	午前	9:00～ 12:00	9:00～ 12:00	9:00～ 12:30	9:00～ 12:00	9:00～ 12:00	9:00～ 12:00	9:00～ 12:00
		青森・高山	末田	名越・高山	高山	青森	青森	青森
	午後	13:30～ 18:00	15:00～ 18:00	13:30～ 17:00	13:30～ 16:30	15:00～ 18:00	15:00～ 18:00	15:00～ 18:00
		青森・高山	末田	名越・高山	高山	青森	青森	青森
内科	木曜：午前 9:00～12:00 午後 13:30～16:30 / 中村 ※ 2025年9月4日以降は午前中のみとなります							